

◆上映作品

- 1 小さな幻影(18分) / 山に生きる子ら(24分) / 青年の海—四人の通信教育生たち(56分)
- 2 庄殺の森—高崎経済大学闘争の記録(105分)
- 3 現認報告書—羽田闘争の記録(58分)
- 4 日本解放戦線・三里塚の夏(108分)
- 5 ハルチザン前史(120分)
- 6 日本解放戦線・三里塚(141分)
- 7 三里塚・第三次強制測量阻止闘争(50分)
- 8 三里塚・第二砦の人々(143分)
- 9 三里塚・岩山に鉄塔が出来た(85分)
- 10 三里塚・辺田部落(146分)
- 11 映画作りとむらへの道(54分)
- 12 どっこい! 人間節—寿・自由労働者の街(121分)
- 13 クリーンセンター訪問記(57分)
- 14 三里塚・五月の空 里のかよい路(81分)
- 15 牧野物語・養蚕編(112分)
- 16 牧野物語・峠(43分)
- 17 ニッポン国古屋敷村(210分)
- 18 1000年刻みの日時計—牧野村物語(222分)
- 19 京都鬼市場・千年シアター(18分) / 映画の都—山形国際ドキュメンタリー映画祭'89(93分)
- 20 満山紅柿 上山—柿と人とのゆきかい(90分)

◆上映スケジュール[各回入れ替え制]

2月24日[火]	15:00~ 1	17:10~ 2	19:30~ 3
2月25日[水]		16:10~ 4	18:30~ 5
2月26日[木]	13:40~ 6	16:40~ 7	18:00~ 8
2月27日[金]		15:00~ 9	17:00~ 10 + 講演
2月28日[土]	14:30~ 11	16:00~ 12	18:40~ 13
3月 2日[月]	15:30~ 14	17:30~ 15	20:00~ 16
3月 3日[火]			17:00~ 17
3月 4日[水]			16:30~ 18
3月 5日[木]	14:30~ 19	17:00~ 20	19:00~ 1
3月 6日[金]	15:10~ 2	17:30~ 3	19:00~ 4
3月 7日[土]		14:30~ 5	17:00~ 6
3月 9日[月]	14:40~ 7	16:00~ 8	19:00~ 9
3月10日[火]		16:30~ 10	19:30~ 11
3月11日[水]	15:00~ 12	17:30~ 13	19:00~ 14
3月12日[木]		17:30~ 15	20:00~ 16
3月13日[金]			17:00~ 17
3月14日[土]		13:30~ 18	18:00~ 20

◆料金

一般=1回券1,000円 / 3回券2,500円  
 アテネ・フランセ文化センター会員=600円  
 ※アテネ・フランセ文化センター会員入会をご希望の方は登録が必要になります。  
 登録料:一般=1,500円 / アテネ・フランセ学生=1,000円(2009年12月まで有効)

◆会場&お問い合わせ

**アテネ・フランセ文化センター**  
 東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4F  
 (JR/地下鉄 御茶ノ水・水道橋駅徒歩7分)  
 TEL. 03-3201-4339(13:00~20:00)  
<http://www.athenee.net/culturalcenter>



フォン・イエン(馮艶)監督作  
**長江に生きる 秉愛の物語**  
 2009年2月下旬 春節ロードショー  
 渋谷ユーロスペース TEL. 03-3461-0211



特別鑑賞券 ¥1,400 発売中! <http://www.bingai.net>

中国、三峡ダム建設に伴う移住命令に、ひとりの女性が立ち向かう……。世界が絶賛するドキュメンタリー作家が誕生した。山形国際ドキュメンタリー映画祭2007小川紳介賞受賞作が新音響版で劇場公開。

1966年、小川紳介は「青年の海—四人の通信教育生たち」(66)を自主製作。翌年には「庄殺の森—高崎経済大学闘争の記録」「現認報告書—羽田闘争の記録」を相次いで発表。同年、小川プロダクションを設立。小川プロダクションは三里塚での新東京国際空港建設反対闘争の撮影を開始し、68年、「日本解放戦線・三里塚の夏」を発表。以後、三里塚農民と生活を共にしながら、「三里塚」シリーズ七作を連作。その後、山形県上市市牧野に移住。82年、「ニッポン国古屋敷村」でベルリン映画祭国際批評家連盟賞受賞。86年、最後の長編作「1000年刻みの日時計—牧野村物語」を発表。小川紳介はその後も山形国際ドキュメンタリー映画祭の実現に奔走するなど活動を続けるが、92年に死去。その作品群は、今日においても、アジアをはじめとする世界の映画人を刺激し続けている。

◆講演

2月27日[金]  
 17:00の回上映後

講師: フォン・イエン(馮艶)  
 (ドキュメンタリー映画作家)  
 中国、天津の大学で日本文学を学んだ後、日本に留学し、京都大学大学院で農林経済学を研究する。小川紳介著、山根貞男編集「映画を獲る—ドキュメンタリーの至福を求めて」を中国語に翻訳し、台湾、中国で出版。97年、初長編「長江の夢」を発表。「長江に生きる 秉愛の物語」(2007)は、山形国際ドキュメンタリー映画祭2007小川紳介賞&コミュニティシネマ賞を受賞した。現在、新作「長江の女たち」(仮題)の編集中。

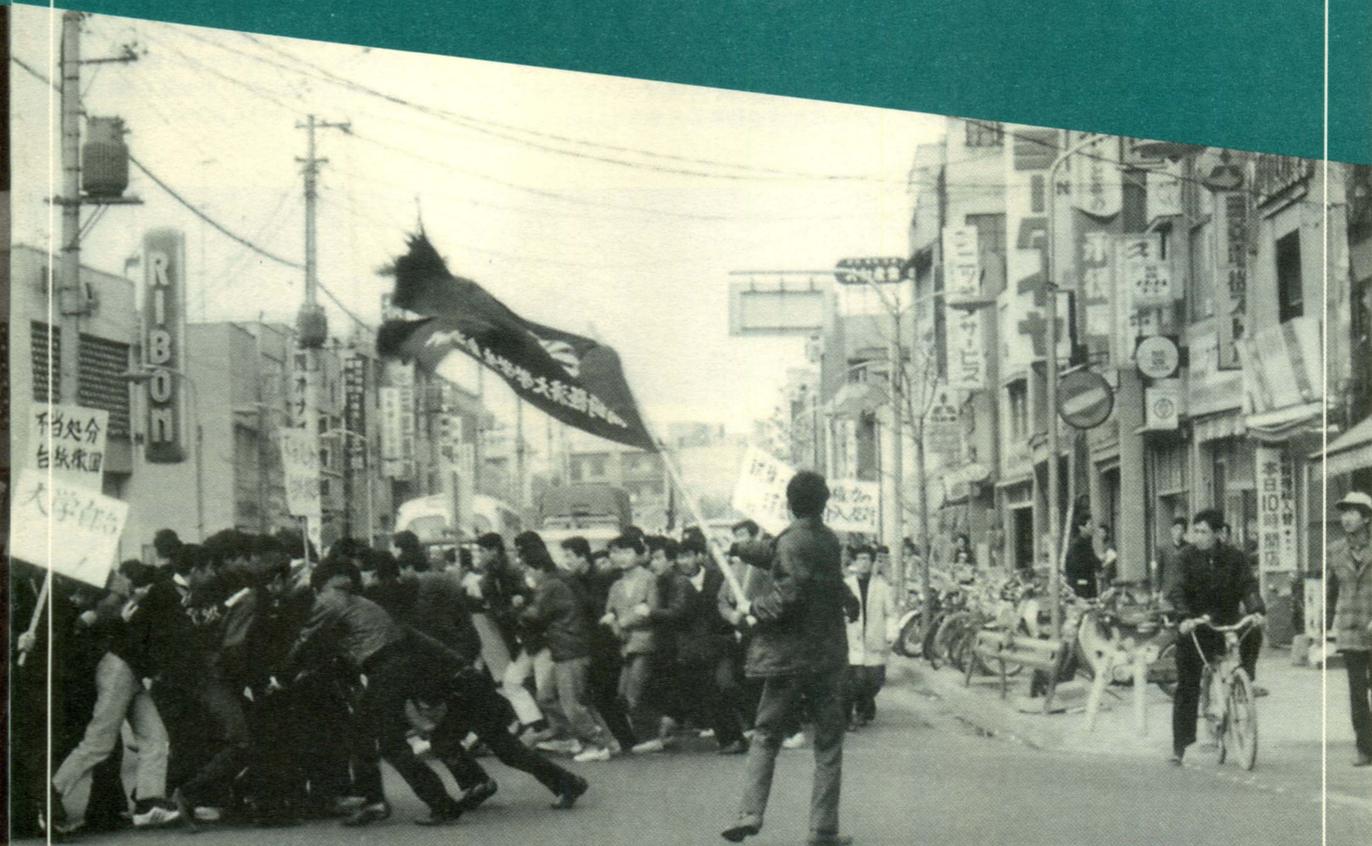
特集

# 小川紳介と小川プロダクション

2009年2月24日(火)~3月14日(土) [日曜休館 / 17日間]

会場◆アテネ・フランセ文化センター(御茶ノ水)

日本の戦後ドキュメンタリー映画を変革した小川紳介と小川プロダクション  
 今日においても世界の映画人を刺激し続けているその全作品を一挙上映!



特集

小川紳介と  
小川プロダクション

1957



小さな幻影

1957(18分)

製作担当:小川紳介 川名次雄 澤田秀信

国学院大映研を組織しての第一作。人形劇を見に来た内気な少年の夢をメルヘン風に描き、子供を取り巻く環境と教育の大切さを訴えた短篇。

1958



山に生きる子ら

1958(24分)

製作担当:小川紳介 川名次雄

小川紳介が大学在学中に、長野県の山間の分校を2年がかりで記録した作品。1ヶ所て長期にわたって撮影するという小川プロの原形が、ここにすでに作られていた。

1966



青年の海—四人の通信教育生たち

1966(56分)

監督:小川紳介 撮影:奥村祐治

通信教育制度改定反対闘争の中で、学ぶこと、働くことを改めて問い直す4人の通教生。その運動の行方と逡巡する心の軌跡を追って、カメラもついに駆け廻りだす。

1967



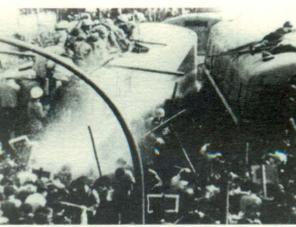
圧殺の森—高崎経済大学闘争の記録

1967(105分)

監督:小川紳介 撮影:大津幸四郎

高崎経済大学の学園闘争の記録にして、60年代後半の全国的な学園叛乱の予兆に満ちた自主製作映画。効果的に使われた「盗み撮り」の手法と、小川はこの後訣別してゆく。

1967



現認報告書—羽田闘争の記録

1967(58分)

監督:小川紳介 撮影:大津幸四郎

第一次佐藤首相訪米阻止闘争の中で起こった京大生の死の真相を探る。「権力との衝突の際に、(カメラは)決して警察権力と学生の間横位置に居るべきではなかった。」(小川)

1968



日本解放戦線・三里塚の夏

1968(108分)

監督:小川紳介 撮影:大津幸四郎

「三里塚」シリーズの第一作。「全部(のショットを)、農民の列中から、その視座から撮り、権力側を撮るにも、正面から、カメラの存在をかけて、それとの対面で、すべてを撮った。」(小川)

1969



パルチザン前史

1969(120分)

監督:土本典昭 撮影:大津幸四郎

小川の前輩にして盟友である「水俣」の作家・土本典昭が監督し、小川プロがサポートした一本。京大全共闘・パルチザン5人組のリーダー、滝田修の闘争と日常生活に迫る。

1970



日本解放戦線・三里塚

1970(144分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

通称「三里塚の冬」。離脱者が出る中で、空港反対派農民に徐々におとずれる疑問・空虚感。官憲との衝突を繰り返しながらも、戦いは自己自身の内面へと向けられてゆく。

1970



三里塚・第三次強制測量阻止闘争

1970(50分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

自ら糞尿弾と化して測量を阻止せんとする農民たち。カメラは文字通り彼らに徹底的に伴走する。闘争が激化し、緊急に撮影・編集・上映されたシネ・トラクト。

1971



三里塚・第二砦の人々

1971(143分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

破壊されるバリケード小屋。農婦らは自らを鎖で縛りつけて後退を拒む。地下深く掘られた壕の中、ロウソクの灯の下で抵抗が「続く」。マンハイム映画祭スタンバーグ賞を受賞した、シリーズ中の核。

1972



三里塚・岩山に鉄塔が出来た

1972(85分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

反対同盟を中心に計画された滑走路使用不能大作戦。滑走路南端にあたる岩山地区にみるみる60メートルの大鉄塔が築かれてゆく。

1973



三里塚・辺田部落

1973(146分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

「闘い」から「闘いの中の日常」へ。固い団結を誇る辺田部落に住みつけたカメラは農民の声を聞き撮りしてゆく。「古屋敷」「牧野」へ移行する分水嶺となったシリーズ第6作。

1973



映画作りとむらへの道

1973(54分)

監督:福田克彦 撮影:川上皓市

「辺田部落」制作時の小川プロの姿を描き出した、彼ら自身の手によるドキュメント。長らく封印されていた本作は完成後27年を経て、1999年に初公開された。

1975



どっこい!人間節—寿・自由労働者の街

1975(121分)

構成/編集:小川紳介 撮影:奥村祐治

小川プロの若手スタッフが横浜・寿町に住みつけた。寄せ場に集まる労働者=土を離れた農民の個人史が浮き上がる。「貧乏じゃ汚くないね、人間は。貧すれば光るって、ほんとだよ。」(小川)

1975



クリーンセンター訪問記

1975(57分)

監督:小川紳介 撮影:奥村祐治

山形県に移り住んだ小川プロから上市市への名刺がわりの一本。新設ゴミ処理場のPR映画の体裁をとっているが、煤煙公害をめぐってカメラは清掃作業員の視座から追求をはじめ。

1977



三里塚・五月の空 里のかよい路

1977(87分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

三里塚へ4年ぶりに「里帰り」した小川プロは、依然つづく空港反対闘争とともに農地を荒らす自然現象にもカメラを向ける。鉄塔は倒され、その上を五月の「赤風」が吹き過ぎる。

1977



牧野物語・養蚕編

1977(112分)

監督:小川紳介 撮影:原正

「お蚕さま」を育てる小川プロを、強力なコーチ・木村サトさんが指導する。やがて養蚕作業の中からサトさんの人生の軌跡が浮かび上がる。同録8ミリをブロー・アップした超文化映画。

1977



牧野物語・峠

1977(43分)

監督:小川紳介 撮影:奥村祐治

山形在住の詩人・真壁仁の詩碑が蔵王に建った。刻まれた詩は「峠」。長廻しのインタビューを通して詩人の昭和史が語られてゆく。小川紳介の真壁仁にたいする親愛が伝わってくるような、心温まる小品。

1982



ニッポン国古屋敷村

1982(210分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

稲の凶作の原因を探るサスペンスフルな科学映画の前半から、村の古老たちが自分史を語り「ニッポン国」のフシギな姿が浮上する後半へ。ベルリン映画祭国際批評家連盟賞受賞作。

1986



1000年刻みの日時計—牧野村物語

1986(222分)

監督:小川紳介 撮影:田村正毅

牧野村移住13年の集大成にして小川紳介映画渡世の総決算。稲の中に宇宙が広がり、様々な出土品は村の古層を現前させ、ドキュメンタリーとフィクションはボーダーレスとなる。

1987



千年シアター

1987(18分)

監督:小川紳介 撮影:牧逸郎

87年夏、土、藁、葦、丸太で出来た「1000年刻みの日時計」専用の映画館が京都に出現。この劇場を建設し、命を吹き込んだ若者たちを小川紳介が関西のスタッフとともに描く。

1991



映画の都—山形国際ドキュメンタリー映画祭'89

1991(93分)

構成/編集:小川紳介 監督:飯塚俊男 撮影:大津幸四郎

1989年秋、第一回山形国際ドキュメンタリー映画祭に世界各地の映画人が集った。映画祭の顔として駆け回る小川紳介。一方アジアの作家たちはタヒミック起草の「映画宣言」を採択して意気あがる。

2001



満山紅柿—上山 柿と人とのゆきかい

2001(90分)

監督:小川紳介[第一期] 彭小蓮(ベン・シャオリン)[第二期]

「1000年刻みの日時計」のために撮影された未完の「柿」の物語。小川紳介が遺したシノプシスをもとに中国第五世代の映画作家・彭小蓮が撮影、編集し、完成させた。